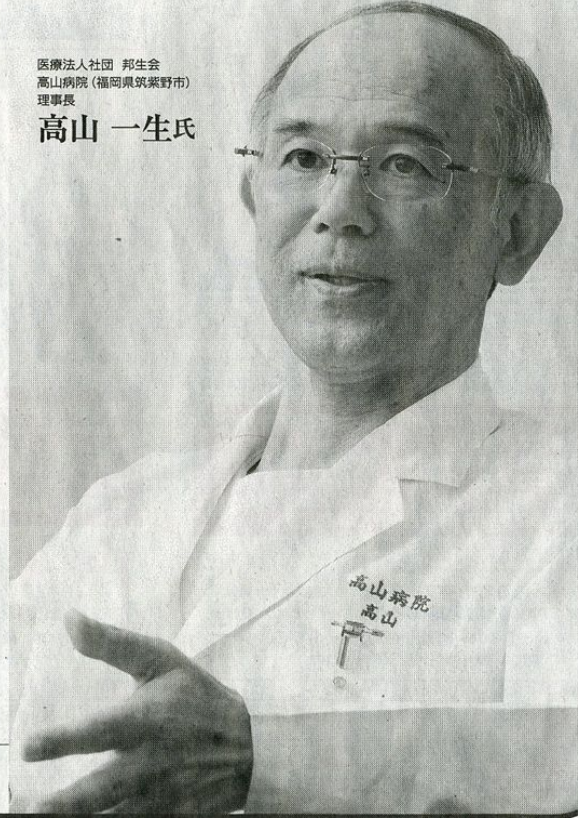


インタビュー 前立腺がん がん細胞を超音波で根治、最新のHIFU（ハイフ）治療

医療法人社団 邦生会
高山病院（福岡県筑紫野市）
理事長
高山 一生氏



食生活の欧米化や超高齢化社会に伴い、男性特有の疾患である前立腺がんが増えている。根治には、早期発見し、前立腺全摘出手術が標準的とされてきたが、切らずに済む新療法として高密度焦点式超音波治療法「HIFU（ハイフ）」が注目されている。安全性が高く副作用も少ないのが特長だが、ハイフ治療で患者のQOL（生活の質）向上に実績を重ねている高山病院（福岡県筑紫野市）の高山一生理事長に、がんの早期発見の重要性とハイフ治療法について聞いた。

早期発見が大切です！ 50歳になったら年に1度はPSA検査を

前立腺がんとは？

前立腺は、膀胱（ぼうこう）のすぐ下にある、男性ホルモンでコントロールされている男性特有の臓器で、精液の一部である前立腺液を分泌します。この器官に発生する悪性腫瘍（しゅよう）が前立腺がんです。主に50代以上で発症することが多く、高齢になるにつれ罹患（りかん）率が高

くなります。ほかのがんに比べゆっくりと進行するため、早期に発見できれば根治しやすいといえます。ただ、初期には自覚症状がほとんどないため発見が遅れがちなので、検診による早期発見が大切です。

早期発見を可能にしたPSA検査

PSA（前立腺特異抗原）検査は、前立腺がんの腫瘍マーカーで、がんを最初につ

発見する手段として画期的で有効な血液検査です。泌尿器科や内科で簡単に検査が受けられます。前立腺がん発生率1位のアメリカでは40歳で検診を勧められていますが、日本でも前立腺がん患者は年々増加傾向にあり、早期発見のためにも50歳を過ぎたら年に1度、採血によるPSA検査の受診をお勧めします。

切らずに済むハイフ治療

低リスクのがんなら摘出手術と同程度の効果も期待

前立腺がんの治療法は？

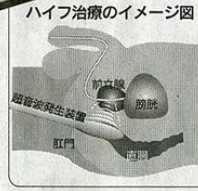
患者さんの年齢やライフスタイル、PSA値、がん細胞の悪性度を示すグリニン・スコアやがん進行の度合いなどを考慮しながら、最適な治療法を選択します。とりわけ、早期がんの場合は外科手術による前立腺摘出術をはじめ、放射線

療法、ホルモン療法などがあります。また実施できる施設はまだ限られています。が、最先端治療のハイフもあります。

がんを焼くハイフ治療

ハイフ治療は、体を切らずに超音波エネルギーを利用して前立腺がんを焼いてしまう低侵襲性治療法です。初期がんには非常に有効です。①安全性が高い

男性機能が保たれる③3泊4日の短期入院で、日常生活への復帰が早いなどの特長があります。体に優しいので、75歳以上の高齢者も受けられます。



②出血がまったくなく、合併症や副作用が少ない③低リスクのがんは、根治的全摘出術と遜色（そんしょく）のない効果が期待できる④

多くの前立腺がんはゆっくりと進行するため、必ずしもがんが発見されたからと慌てて手術する必要はありません。その人の人生がありますから、患者さんが十分に各治療法の長所・短所を理解した上で最適な治療法を選ばばいいと思います。そのためにも年に1回の検診と早期発見が肝心です。